

動労千葉の正しい路線のもと 3月決戦ストを打ちぬく!

「本部」革マル分子の組織破壊に完全勝利
電運士Bさん (32才)

三月ジェット決戦を闘う中で、青年部は一人一人の任務分担任などを決め、闘いぬいてきた。その中でわれわれの団結の強さますますはつきりしてきたと思う。籠城中、班をつくり、権力・当局による闘争破壊を許さない体制

三月ジェット決戦を闘いぬいて
電運士Aさん (22才)

青年部員が多くなって楽しく闘えた。ニュースなどで動労千葉のニュースがでると自分達がやったのだという実感がわいてきた。

青年部独自集会での前乗務員会長の川島さんの講演で、われわれはマル生は知らないが、先輩達がそのよりのな中を闘い抜いてきていまの動労千葉を築いてきたことがわかった。これを守っていくのがこれからのわれわれの役目だと思った。

三月決戦ストで一層支部の結束が強まった
電運士Cさん (42才)

今回の闘いは経済闘争と違っていて、すぐに結果がでるといえるものではない。しかし、このような闘いを闘うことによって組織が強くなっていくことが成果であると思う。

青年部を含め、結束が強くなった。しかし、これで闘争が終ったわけではない。本場の闘いはこれからだ。「本部」反動分子と結託した処分攻撃をかけてくるだろう。そのような攻撃に対しうらかった時に本場の勝

利があるのだと思う。

労働運動の原点に立って戦争への道を阻止しよう
電運士Dさん (35才)

秋山反動局長と動労「本部」そして国家権力三者一体となった動労千葉破壊には本当に怒りがこみあげてくる。それに付け加えて「千葉地本情報」なるデマ情報……。これなどに至ってはもう怒りをこえてしまった。しかし、私達はここで敗けるわけにはいかない。

労働者として労働運動の原点にたち、労働者の連帯をさらに拡大しなければならぬ。

日本はいま、軍靴の足音のしるよりも、基本的人権さえもくずれさるうとしていの中で、誰かが戦争への道を阻止しなければならぬ。政府自民党は、天皇制を基盤にした軍国主義体制を最終目標にしている。私達はもともと政治面に耳をかたむけ、そして仲間と仲間の間に話を進め、労働者として人間として考えていこうと思う。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ!



マル生攻撃との苦闘を勝ちぬいてきた青年層、全く若くし独創的な青年層、109名組合員の気風がピッタリと融合して、すばらしい組織力、団結力を誇る千葉転支部。〈あいざつに立つ永田支部長、3.5全線スト突入前夜総決起集会にて〉

総武快速・房総全線ストの大拠点 千葉転支部組合員の感想

権力・当局・「本部」革マル一体となった敵対・弾圧をはねのけ闘い抜く
永田千葉転支部委員長

千葉運転区支部は三月決戦ストを闘うにあたり、権力・当局「本部」革マルとの闘いに勝ち抜く為にあらゆる事態を想定し、闘いを準備し、いついかなる時でも闘いに突入できる万全の体制を確立し、満を持して闘いに入った。闘いの中で、班の集会、青年部の独自行動等々における組合員一人一人の緊張の中にも余裕をもち生き生きと闘い抜いている姿を見て分離独立以降の動労千葉の路線が全く正しかったと自信と確信を増々深めた。

一方、スト貫徹で打撃を受けた権力・当局・「本部」革マルのとりもどしの為の凶暴化する弾圧は必至だろうが、我々千葉転支部は、「決戦ストは終りてなくより大きな決戦の始まりにすぎない」ということを胆に銘じ断乎闘い抜く決意である。

最後に、三月決戦ストに於いて「スト破り」「保護願へ」「B変」「処分要請」等々を行った「本部」革マル土屋一派を絶対に許すことが出来ないし粉砕あるのみだ。

我々千葉転支部は三月決戦の成果の上に立ち必ずや佐倉土屋一派解体、親子支部の早期結成——動労大改革の闘いの最先頭に立って闘う。

日刊 動労千葉

81. 3. 23

No. 696

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五・六(会館)0552(2)七二〇七